

| 重点取組分野 | 令和 4 年度 | | 総括 |
|----------------|---|--|----|
| | 具体的取組 | 自己評価結果 | |
| 生きてはたらく知 | 生徒の「じっくり考え 高め合い 次につなげる確かな学び」を実現するために、学力向上アクションプランに基づいて、授業改善を行う。 横浜市学力・学習状況調査、全国学力学習状況調査の結果を積極的に公表、活用する。(数値は全てR3年度のもの) ①学習したことを、日常生活や社会に出て役立てようと考えられるようにする。(東鴨居85.5%/全国86.7%) ②自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表できるようにする。(東鴨居51.1%/全国62.0%) ③生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができるようにする。(東鴨居70%/横浜77%) | ・コロナ禍の中でできる限り対話的な学習を取り入れ、ICT機器を活用して、意見を交流することができるようにしたりして、学力向上アクションプランの具現化に向けた授業改善を進めることができた。 ・市や国の学力学習状況調査の結果から、学力向上の取組を各教科で工夫し、試行する場面やそれを伝え合う場面などを設定することができた。 | B |
| 豊かな心 | 「学び合い」を通して、自らを律しつつ、他人とともに協調し、他人を思いやる心や感動する心などの豊かな人間性を育む。 横浜市学力・学習状況調査、全国学力学習状況調査の結果を積極的に公表、活用する。 ①人が困っているときは、進んで助けることができるようにする。(東鴨居83.5%/全国88.5%) ②自分と違う意見について考えることは楽しいと感じられるようにする。(東鴨居68.3%/全国74.7%) ③自分以外の人のためになることをしたいと思うことの大切さを理解できるようにする。(東鴨居57%/横浜60%) | ・学習活動や学年・学校行事等によって、主体的に人との関わりをもち、協調して取り組む力や互いに助け合い、思いやる心が育っている。 ・家庭環境が複雑な生徒もおり、豊かな心を育むことの重要性を感じる。 | B |
| 健やかな体 | 横浜市「健やかな体」育成プログラムに沿って、家庭と協力しながら体力向上を目指す。 「健やかな体の育成プラン」の推進。学校保健委員会の活動の活性化。体力・運動能力調査の結果を積極的に公表、活用する。 ①健康三原則「運動：週に420分以上」(東鴨居男子84.1%/全国79.1%、東鴨居女子52.2%/全国58.4%)、「食事：毎日朝食、決まった時間に夕食」(東鴨居男子78.6%/全国80.6%、東鴨居女子88.4%/全国75.5%)、「睡眠：睡眠時間8時間以上」(東鴨居男子34.3%/全国29.8%、東鴨居女子31.9%/全国20.5%)を徹底することの大切さを理解できるようにする。 ②保健体育科の授業で目標を示す、学んだ内容を振り返る活動を行う。 ③テレビ、スマートフォン、パソコン等による映像の視聴時間が及ぼす害について理解できるようにする。 | ・体育祭での各クラスの大規模競技に熱心に取り組み、体力向上や運動習慣の定義に向けた取組ができた。 ・学校保健委員会の活動において、歯と口の健康をテーマに、保健委員会生徒による問題提起や情報発信が行われ、生徒一人ひとりが自分の健康な生活について考える機会とすることができた。 | B |
| 地域連携・学校運営協議会 | 保護者・地域のサポートを生かし、開かれた学校づくりを努めるとともに、学校運営協議会の活性化を図る。 ①地域学校協働活動推進員(学校・地域コーディネーター)が運営するヒガカモの会を中心に、学習ボランティアを募り、放課後の学習支援事業を充実する。 ②地域行事等に生徒が積極的に参加するよう促し、地域と連携し主体的に活動する生徒を育成する。 ③学校HPを毎週更新し、家の人が生徒と学校での出来事について話す話題を提供する。 | ・学校の様子を学校ホームページを活用して積極的に情報発信できた。 ・放課後学習支援をヒガカモの会によって実施し、生徒と地域の講師の方との交流と活動の充実を図ることができた。 ・学校運営協議会を可能な限り対面で実施できた。 ・地域行事へのボランティア参加生徒の募集を行い、応募生徒が実際に活動して地域に貢献する体験ができた。 | B |
| いじめへの対応 | 「学校いじめ防止基本方針」に沿って、いじめの未然防止、いじめの早期発見、いじめに対する措置、いじめの解消を行う。 ①YPAセメントを年間2回実施し、集団の実態把握に努める。 ②「学校いじめ防止対策委員会」を常設し、月1回以上、定期的に開催する。 ③年間3回以上の生活アンケート及び教育相談を実施する。 ④いじめは、どんな理由があってもいけないということを理解できるようにする。(東鴨居79%/横浜80%) | ・学年内の連携や、専任、生徒指導部との情報共有、チームでの組織的な対応ができていた。 ・毎週の特別支援委員会でのいじめについて確認をして、早期発見、初期対応を迅速に行うことができるようになった。 ・YPAセメントの結果やアンケートの内容などから心配な生徒の見守りを行っている。 ・学校としてのいじめ認知前に、学年職員の間には必須にしたい。認知した場合職員会議を待たずに全職員で共有し、学校として組織的に対応する。 | B |
| 人材育成・組織運営(働き方) | 教職員が、自らのキャリアについて将来展望をもち、身に付けるべき能力を自覚し、職務遂行等を通じて積極的に能力開発を行うとともに、組織的課題解決ができる人材の育成を行う。 ①「チームヒガカモ」を組織し、経験・教科・分掌等の垣根を超えた意見交換で、教職員のレベルアップを行う。 ②自己観察書の自己目標設定面談や中間期の振り返り面談、観察指導記録開示面談等を通して、教職員一人ひとりがキャリアステージや将来のキャリア展望に向けて適切に目標を設定し、振り返りを行い、業務改善に取り組めるようにする。 ③教職員が、効率的に業務を遂行するために、問題解決手法についての研修を実施し、日々の業務に生かせるようにする。 | ・3年次までの初任者研修授業研究、校内授業研究会を計画的に行うことができた。 ・業務量が非常に多く、勤務時間を大幅に超えることでしか業務をこなせなかった。 ・校内組織のバランスや業務量の偏りなど改善を図りたい。 | B |
| 教育課程 | 教育活動のねらいを明確にし、ねらいを達成するためにPDCAサイクルをしっかりとスパイラルアップさせる。 ①小中一貫して主体的・対話的で深し学びを実現するために、講師を招聘し、各教科・領域の小中合同授業研究会を実施する。 ②学校行事等において生徒アンケートを行い、ねらいの達成度や改善点等について振り返りを行い、より良い活動の実施に繋げる。 ③道徳の授業、戦争についての講話、人権講演会、修学旅行に向けた学習や長崎での学習等を通して、平和への理解を更に深め、自分たちの生活と結びつけて、平和の実現に向けて継続的に考えるようにする。 | ・小中合同授業研究会、各教科ごとに指導主事を招聘して行った校内授業研究会等により、教育活動の工夫や見直し、改善を継続的に行うことができた。 ・平和学習を学年の段階に応じて積み重ね、生徒一人ひとりが平和の実現に向けて継続的に考える姿勢や力を育むことができた。 | B |
| 特別支援教育 | 学び合う中から一人ひとりの違いを認め合い、支え合う中で豊かな心を育て、様々な人々が生き生きと活躍できる共生社会を築き、その社会で生きる子どもを育成する。 ①教職員グループウェアを活用し、情報交換、全体共有を行ない、個々の生徒に応じた支援を行う。 ②デキタスを活用し、生徒の実態に応じた学習サポートを行う。 ③個別の指導計画・支援計画、問題解決型ケース会議を活用し、生徒の学校での適応状況改善を行う。 ④生徒が学校は安心できる場所だと感じられるようにする。(東鴨居80%/横浜87%) ⑤自分のことが好きだと感じられるようにする。(東鴨居60%/横浜65%) | ・日頃の学年内の情報共有や校内特別支援委員会を通じて組織的に対応することができた。 ・毎週の特別支援委員会にて状況等報告や今後の進め方が検討できてはいるが、個別級担任も参加できる状況にして、委員会の機能を高めていく。 ・教職員一丸となって取り組んでいても、特別支援を必要とする生徒の多さ、多様さから、難しさを感じる。 | B |
| 生徒指導 | 一人ひとりの生徒の人格を尊重し、個性の伸長を図りながら、社会的資質や行動力を高めることを目指して教育活動を行う。 横浜市学力・学習状況調査、全国学力学習状況調査の結果を積極的に公表、活用する。 ①自分にはよいところがあると感じられるようにする。(東鴨居67%/横浜75%) ②挨拶を自分からすることの大切さを理解できるようにする。(東鴨居89%/横浜90%) ③人とコミュニケーションをとることが楽しく感じられるようにする。(東鴨居86%/横浜88%) ④学校生活で身近に解決すべき課題があれば、それをみんなと一緒に解決できると感じられるようにする。(東鴨居84%/横浜84%) ⑤始めたことは、何でも最後までやり遂げることの大切さを理解できるようにする。(東鴨居68%/横浜74%) | ・職員の意識の差から共通意識をもてないことがあると、チームで働けないので、これからも三学年で統一し、連携して指導していきたい。 ・各学年の生徒指導担当が学年の生徒の状況を丁寧に把握し、生徒指導部として情報を共有、指導方針の決定を行うことができた。 | B |
| 進路指導 | 生徒が自らの生き方を考え、将来に対する目的意識をもち、自分の意志と責任で進路を選択・決定する能力・態度を身に付けることができるよう、教育活動全体を通じ指導・援助する。 横浜市学力・学習状況調査、全国学力学習状況調査の結果を積極的に公表、活用する。 ①将来の夢や目標をもてるようにする。(東鴨居65.5%/全国68.6%) ②地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることができるようにする。(東鴨居33.8%/全国43.8%) ③『横浜の時間』で主体的に学べるように工夫する。(東鴨居81%/横浜73%) ④人の役に立つ人間になりたいと感じられるようにする。(東鴨居93.8%/全国95.0%) | ・進路主任を中心に、入試制度に関わる情報提供と生徒・保護者の理解を図る取組が丁寧に進められた。 ・進路学習において、生徒が将来の自らのなりたてたい姿、目標をもち、そこに至る過程としての選択・決定を生徒自らの意思で行っていくことができるよう指導することができた。 | B |
| ブロック内評価後の気付き | ・今年度もコロナウイルスの影響があったが、中学校1回、小学校1回の授業参観を行い、小中連携研修会が開催できた。情報共有や目指す子ども像の具現化に向けたテーマ設定と検証などを行うことができた。 ・地域とのつながりをもつ機会が限られる中で、少しずつできる活動や関わり方を検討し、取り組むことができた。今後も社会の一員としての自覚をもたせられるような指導を心掛けていきたい。 | ・今年度も中学校1回、小学校1回の授業参観を行い、小中連携研修会が開催できた。情報共有や目指す子ども像の具現化に向けたテーマ設定と検証などを行うことができた。 ・6年生対象に授業・部活動の見学を実施し、中学校入学への不安をなし、小中の円滑なつながりができた。 ・地域とのつながりをもつ機会が限られる中で、少しずつできる活動や関わり方を検討し、取り組むことができた。今後も社会の一員としての自覚をもたせられるような指導を心掛けていきたい。 | |
| 学校関係者評価 | ・学校教育目標に向けて、教職員が努力し、生徒を温かく受け止めている。目標が受け継がれ、定着してきていると感じる。 ・コロナの影響で地域での活動や交流の場も制限されていたが、少しずつ工夫しながら増やしていかないとよい。 ・自分の考えを表現する力を育てること、自信をもてるように育ててほしい。 ・平和教育は東鴨居中の伝統として根付いていると感じる。平和の実現のために自ら考えて行動できる大人に成長してくれることを願っている。 ・生徒指導では、生徒が納得できるように指導することや、情報共有、連携をしっかりと取って進めていくようにしてほしい。 ・働き方改革などで教職員の働きにゆとりがもてるように、生き生きと働けることが生徒への指導の充実につながる。 | ・学校教育目標に向けて、教職員が努力し、生徒を温かく受け止めている。目標が受け継がれ、定着してきていると感じる。 ・コロナが原因となり、地域行事での活動や交流の場が増えた。生徒が地域ボランティアに参加することで学校と地域のつながりの再構築ができた。 ・自己肯定感を高めるために自分の考えを表現する力を育てること、自信をもてるように育ててほしい。 ・平和教育では修学旅行の平和宣言とともに心に残る東鴨居中の伝統として根付いていると感じる。平和の実現のため将来色々な場面で平和な社会を作っていくことを願っている。 ・生徒指導では、生徒が納得できるように指導することや、情報共有、連携をしっかりと取って進めていくようにしてほしい。 ・働き方改革などで教職員の働きにゆとりがもてるように、生き生きとしている姿を生徒に見せ続けてほしい。 | |
| 中期取組目標振り返り | ・学校教育目標を達成するために、生徒理解に基づいた指導や支援を行うとともに、主体的に人とかかわり、互いに助け合いながら成長することができるように、学年・学校行事や学習活動を行うことができた。 ・情報共有や共通理解を図りながら組織的に対応することが必要であり、引き続き意識して取り組んでいく。 ・地域と学校が一体となって教育活動が行われていくように、学校運営協議会における学校教育の方向性の共有や意見交流、ヒガカモの会による学習支援など、連携・協働を進めていく。 | ・学校教育目標を達成するために、生徒理解に基づいた指導や支援を行うとともに、主体的に人とかかわり、互いに助け合いながら成長することができるように、学年・学校行事や学習活動を行うことができた。 ・情報共有や共通理解を図りながら組織的に対応することが必要であり、引き続き意識して取り組んでいく。 ・地域と学校が一体となって教育活動が行われていくように、学校運営協議会における学校教育の方向性の共有や意見交流、ヒガカモの会による学習支援など、連携・協働を進めていく。 | |

| 重点取組分野 | 令和 5 年度 | | 総括 |
|----------------|---|--|----|
| | 具体的取組 | 自己評価結果 | |
| 生きてはたらく知 | 生徒の「じっくり考え 高め合い 次につなげる確かな学び」を実現するために、学力向上アクションプランに基づいて、授業改善を行う。 ①学習したことを、ふだんの生活の中で、生かして使おうと考えられるようにする。(R4東鴨居75%/横浜82.9%) ②自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表できるようにする。(R4東鴨居52.9%/全国63.3%) ③学校の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができるようにする。(R4東鴨居62.3%/全国78.7%) | ・対話的な学習を取り入れ、ICT機器の有効的な活用によって意見を交流することができるようになり、学力向上アクションプランの具現化に向けた授業改善を進めることができた。 ・市や国の学力学習状況調査の結果から、学力向上の取組を各教科で工夫し、試行する場面やそれを伝え合う場面などを設定することができた。 | B |
| 豊かな心 | 「学び合い」を通して、自らを律しつつ、他人とともに協調し、他人を思いやる心や感動する心などの豊かな人間性を育む。 ①人が困っているときは、進んで助けることができるようにする。(R4東鴨居86.3%/全国88.4%) ②自分と違う意見について考えるのは楽しいと感じられるようにする。(R4東鴨居73.2%/全国76.9%) ③相手の立場になって、その人の気持ちを考えることができるようにする。(R4東鴨居91.4%/横浜93.0%) ④友達と協力するのは楽しいと感じられるようにする。(R4東鴨居94.9%/全国93.7%) | ・互いに学び合う学習活動や学年・学校行事等によって、主体的に人との関わりをもち、協調して取り組む力や互いに助け合い、思いやる心が育っている。 ・人権学習や道徳の授業を通して多角的多面的に考え、今の自分を振り返ることで道徳的価値の育成と実践意欲を高めることができた。 | B |
| 健やかな体 | 横浜市「健やかな体」育成プログラムに沿って、家庭と協力しながら体力向上を目指す。 「健やかな体の育成プラン」の推進。学校保健委員会の活動の活性化。体力・運動能力調査の結果を積極的に公表、活用する。 ①健康三原則「運動：週に420分以上」(東鴨居男子84.1%/全国79.1%、東鴨居女子52.2%/全国58.4%)、「食事：毎日朝食、決まった時間に夕食」(東鴨居男子78.6%/全国80.6%、東鴨居女子88.4%/全国75.5%)、「睡眠：睡眠時間8時間以上」(東鴨居男子34.3%/全国29.8%、東鴨居女子31.9%/全国20.5%)を徹底することの大切さを理解できるようにする。 ②保健体育科の授業で目標を示す、学んだ内容を振り返る活動を行う。 ③テレビ、スマートフォン、パソコン等による映像の視聴時間が及ぼす害について理解できるようにする。 | ・体育祭での各クラスの大規模競技に熱心に取り組み、体力向上や運動習慣の定義に向けた取組ができた。 ・学校保健委員会の活動において、スマホやパソコン等の視聴による害と睡眠をテーマに、保健委員会生徒による問題提起や情報発信が行われ、生徒一人ひとりが自分の健康な生活について考える機会とすることができた。 | B |
| 地域連携・学校運営協議会 | 保護者・地域のサポートを生かし、開かれた学校づくりを努めるとともに、学校運営協議会の活性化を図る。 ①地域の行事(お祭り、スポーツ大会、防災訓練、ボランティア活動など)に参加していく。(R4東鴨居36.4%/横浜38.9%) ②地域や社会をよくするために何をすべきかを考えている。(R4東鴨居44.2%/全国40.7%) ③学校HPを毎週更新し、家の人が生徒と学校での出来事について話す話題を提供する。(年間学校HP閲覧回数22,000回以上) | ・学校の様子を学校ホームページを活用して積極的に情報発信できた。 ・放課後学習支援をヒガカモの会によって実施し、生徒と地域の講師の方との交流と活動の充実を図ることができた。 ・学校運営協議会が対面で実施でき、学校と地域の交流と理解を深めることができた。 ・地域行事へのボランティア参加生徒の募集を行い、応募生徒が実際に活動して地域に貢献する体験ができた。 | B |
| いじめへの対応 | 「学校いじめ防止基本方針」に沿って、いじめの未然防止、いじめの早期発見、いじめに対する措置、いじめの解消を行う。 ①YPAセメントを年間2回実施し、集団の実態把握に努める。 ②「学校いじめ防止対策委員会」を常設し、月1回以上、定期的に開催する。 ③年間3回以上の生活アンケート及び教育相談を実施する。 ④いじめは、どんな理由があってもいけないということを理解できるようにする。(R4東鴨居94.3%/横浜95.2%) | ・学年内の連携や、専任、生徒指導部との情報共有、チームでの組織的な対応ができていた。 ・毎週の特別支援委員会でのいじめについて確認をして、早期発見、初期対応を迅速に行うことができるようになった。 ・YPAセメントの結果やアンケートの内容などから心配な生徒の見守りを行っている。 ・学校としてのいじめ認知前に、学年職員の間には必須にしたい。認知した場合職員会議を待たずに全職員で共有し、学校として組織的に対応する。 | B |
| 人材育成・組織運営(働き方) | 教職員が、自らのキャリアについて将来展望をもち、身に付けるべき能力を自覚し、職務遂行等を通じて積極的に能力開発を行うとともに、組織的課題解決ができる人材の育成を行う。 ①「チームヒガカモ」を組織し、経験・教科・分掌等の垣根を超えた意見交換で、教職員のレベルアップを行う。 ②自己観察書の自己目標設定面談や中間期の振り返り面談、観察指導記録開示面談等を通して、教職員一人ひとりがキャリアステージや将来のキャリア展望に向けて適切に目標を設定し、振り返りを行い、業務改善に取り組めるようにする。 ③教職員が、効率的に業務を遂行するために、問題解決手法についての研修を実施し、日々の業務に生かせるようにする。 | ・3年次までの初任者研修授業研究、校内授業研究会を計画的に行うことができた。 ・子どもたちのためにと思うといくら時間があっても足りないと感じる。 ・業務量が非常に多く、偏りがあるため校内組織のバランスを検討し、負担感なく業務に取り組むことができるように改善を図る。 | B |
| 教育課程 | 教育活動のねらいを明確にし、ねらいを達成するためにPDCAサイクルをしっかりとスパイラルアップさせる。 ①小中一貫して主体的・対話的で深し学びを実現するために、講師を招聘し、各教科・領域の小中合同授業研究会を実施する。 ②学校行事等において生徒アンケートを行い、ねらいの達成度や改善点等について振り返りを行い、より良い活動の実施に繋げる。 ③道徳の授業、戦争についての講話、人権講演会、修学旅行に向けた学習や長崎での学習等を通して、平和への理解を更に深め、自分たちの生活と結びつけて、平和の実現に向けて継続的に考えるようにする。 | ・小中合同授業研究会、各教科ごとに指導主事を招聘して行った校内授業研究会等により、教育活動の工夫や見直し、改善を継続的に行うことができた。 ・平和学習を学年の段階に応じて積み重ね、生徒一人ひとりが平和の実現に向けて継続的に考える姿勢や力を育むことができた。 | B |
| 特別支援教育 | 学び合う中から一人ひとりの違いを認め合い、支え合う中で豊かな心を育て、様々な人々が生き生きと活躍できる共生社会を築き、その社会で生きる子どもを育成する。 ①教職員グループウェアを活用し、情報交換、全体共有を行ない、個々の生徒に応じた支援を行う。 ②デキタスを活用し、生徒の実態に応じた学習サポートを行う。 ③個別の指導計画・支援計画、問題解決型ケース会議を活用し、生徒の学校での適応状況改善を行う。 ④生徒が学校は安心できる場所だと感じられるようにする。(R4東鴨居80.8%/横浜81.4%) ⑤自分のことが好きだと感じられるようにする。(R4東鴨居73.6%/横浜67.7%) | ・日頃の学年内の情報共有や校内特別支援委員会を通じて組織的に対応することができた。 ・毎週の特別支援委員会には個別級担任の参加し、状況等報告や今後の進め方を検討することで委員会の機能を高めた。 ・特別支援を必要とする生徒の多さ、多様さから、難しさを感じる。より丁寧に対応するために支援員やボランティアを活用して人員確保に努めたい。 | B |
| 生徒指導 | 一人ひとりの生徒の人格を尊重し、個性の伸長を図りながら、社会的資質や行動力を高めることを目指して教育活動を行う。 ①自分にはよいところがあると感じられるようにする。(R4東鴨居73.6%/横浜76.5%) ②挨拶を自分からすることの大切さを理解できるようにする。(R4東鴨居90.7%/横浜90.1%) ③人とコミュニケーションをとることが楽しく感じられるようにする。(R4東鴨居69.3%/横浜86.8%) ④友達とのしたことを言ったことに対して、なぜそれをしたり言ったりするのか理解できるようにする。(R4東鴨居77.2%/横浜85.7%) ⑤自分でやると決めたことは、やり遂げるようにする。(R4東鴨居83.4%/全国86.6%) | ・職員の意識の差から共通意識をもてないことがあると、チームで働けないので、これからも三学年で統一し、連携して指導していきたい。 ・各学年の生徒指導担当が学年の生徒の状況を丁寧に把握し、生徒指導部として情報を共有することで連携が取りやすくなり、指導方針の決定を行うことができた。 | B |
| 進路指導 | 生徒が自らの生き方を考え、将来に対する目的意識をもち、自分の意志と責任で進路を選択・決定する能力・態度を身に付けることができるよう、教育活動全体を通じ指導・援助する。 ①将来の夢や目標をもてるようにする。(R4東鴨居68.15%/全国67.3%) ②学習を通して見つけた地域や社会の課題を、自分たちで解決できると思えるようにする。(R4東鴨居47.9%/横浜60.4%) ③『横浜の時間』では、地域の人と関わり合いながら、よりよい地域や社会を目指して活動している。(R4東鴨居46.5%/横浜61.6%) ④人の役に立つ人間になりたいと感じられるようにする。(R4東鴨居94.9%/全国95.0%) | ・進路主任を中心に、入試制度に関わる情報提供と生徒・保護者の理解を図る取組が丁寧に進められた。 ・進路学習において、生徒が将来の自らのなりたてたい姿、目標をもち、そこに至る過程としての選択・決定を生徒自らの意思で行っていくことができるよう指導することができた。 | B |
| ブロック内評価後の気付き | ・今年度も中学校1回、小学校1回の授業参観を行い、小中連携研修会が開催できた。情報共有や目指す子ども像の具現化に向けたテーマ設定と検証などを行うことができた。 ・6年生対象に授業・部活動の見学を実施し、中学校入学への不安をなし、小中の円滑なつながりができた。 ・地域とのつながりをもつ機会が限られる中で、少しずつできる活動や関わり方を検討し、取り組むことができた。今後も社会の一員としての自覚をもたせられるような指導を心掛けていきたい。 | ・今年度も中学校1回、小学校1回の授業参観を行い、小中連携研修会が開催できた。情報共有や目指す子ども像の具現化に向けたテーマ設定と検証などを行うことができた。 ・6年生対象に授業・部活動の見学を実施し、中学校入学への不安をなし、小中の円滑なつながりができた。 ・地域とのつながりをもつ機会が限られる中で、少しずつできる活動や関わり方を検討し、取り組むことができた。今後も社会の一員としての自覚をもたせられるような指導を心掛けていきたい。 | |
| 学校関係者評価 | ・学校教育目標に向けて、教職員が努力し、生徒を温かく受け止めている。目標が受け継がれ、定着してきていると感じる。 ・コロナが原因となり、地域行事での活動や交流の場が増えた。生徒が地域ボランティアに参加することで学校と地域のつながりの再構築ができた。 ・自己肯定感を高めるために自分の考えを表現する力を育てること、自信をもてるように育ててほしい。 ・平和教育では修学旅行の平和宣言とともに心に残る東鴨居中の伝統として根付いていると感じる。平和の実現のため将来色々な場面で平和な社会を作っていくことを願っている。 ・生徒指導では、生徒が納得できるように指導することや、情報共有、連携をしっかりと取って進めていくようにしてほしい。 ・働き方改革などで教職員の働きにゆとりがもてるように、生き生きとしている姿を生徒に見せ続けてほしい。 | ・学校教育目標に向けて、教職員が努力し、生徒を温かく受け止めている。目標が受け継がれ、定着してきていると感じる。 ・コロナが原因となり、地域行事での活動や交流の場が増えた。生徒が地域ボランティアに参加することで学校と地域のつながりの再構築ができた。 ・自己肯定感を高めるために自分の考えを表現する力を育てること、自信をもてるように育ててほしい。 ・平和教育では修学旅行の平和宣言とともに心に残る東鴨居中の伝統として根付いていると感じる。平和の実現のため将来色々な場面で平和な社会を作っていくことを願っている。 ・生徒指導では、生徒が納得できるように指導することや、情報共有、連携をしっかりと取って進めていくようにしてほしい。 ・働き方改革などで教職員の働きにゆとりがもてるように、生き生きとしている姿を生徒に見せ続けてほしい。 | |
| 中期取組目標振り返り | ・学校教育目標を達成するために、生徒理解に基づいた指導や支援を行うとともに、主体的に人とかかわり、互いに助け合いながら成長することができるように、学年・学校行事や学習活動を行うことができた。 ・情報共有や共通理解を図りながら組織的に対応することが必要であり、引き続き意識して取り組んでいく。 ・地域と学校が一体となって教育活動が行われていくように、学校運営協議会における学校教育の方向性の共有や意見交流、ヒガカモの会による学習支援など、連携・協働を進めていく。 | ・学校教育目標を達成するために、生徒理解に基づいた指導や支援を行うとともに、主体的に人とかかわり、互いに助け合いながら成長することができるように、学年・学校行事や学習活動を行うことができた。 ・情報共有や共通理解を図りながら組織的に対応することが必要であり、引き続き意識して取り組んでいく。 ・地域と学校が一体となって教育活動が行われていくように、学校運営協議会における学校教育の方向性の共有や意見交流、ヒガカモの会による学習支援など、連携・協働を進めていく。 | |